

## 「水の球を用いた造形実験」の概要について

### ◆提案代表者

京都市立芸術大学美術学部 教授 藤原 隆男(ふじわら たかお)

### ◆実施概要

#### <きぼうでの実施>

水を用いて直径約8cmの水球を針金上につくり、宇宙飛行士の手により2本の針金を水球表面に差し込み振動させる。振動の共鳴により水球は4角形や5角形など形をかえる。その水玉の様子をハイビジョンカメラで撮影する。

#### <地上活動>

映像を編集し公開する予定。

### ◆背景

無重力では、水は表面張力のため球になってゆっくりと振動します。この振動に共鳴するような変形を表面の2か所に与えると、2つの振動が重なり合って水球は美しいかたちの振動を示すようになります。水球を振動させる試みは、これまで宇宙で何度か行われていますが、今回2か所に振動をあたえることによって、新たな水球の姿を造形し、サイエンスアートとして試みます。

### ◆このテーマに対する藤原教授のことば(実施前)

この造形は、微小重力を印象づけるものとなるでしょう。予想どおりの振動が見られるかどうか、実験をととても楽しみにしています。



藤原 隆男教授



水球のCG